

# 旭

印刷を支え加工を活かす

工場本部 瓜破工場  
田中賢彦

工場本部の瓜破工場に勤務する田中賢彦さん。旭紙株式会社で20年以上にわたりこの道一筋で歩んできました。社内でも「トップクラスの達人」と名高い田中さんに、「これまでで最も印象に残っている出来事や、失敗からの学び、そしてこの先の目標について伺います。」



——入社に至った経緯と、現在の業務内容について教えてください。

入社のきっかけは、親戚からの紹介です。高校を中退した17歳のときに、アルバイトとして雇ってもらいました。当初は正社員になれるとは思っていませんでした。正社員登用のお話をいただいたときは、とても嬉しかったことを覚えています。今年で41歳。ずっと旭紙工一筋で歩んできました。

現在は中綴じのオペレーターとして、おもに製本後の検品や、機械のセットなどを担当しています。また、自ら作業を行いつつ、部下や他メンバーの作業も監督しています。

——お仕事の中で最もこだわっているのは、どのような部分でしょうか。

「ST」という中綴じ折製本機の扱いに関しては、誰にも負けない自信があります。使い始めた当初から、不明な点があれば徹底的に調べ、理解を深めるよう努めてきました。調べる方法としては、機械を知り尽くしている上司に質問

をします。

会社を支えるベテランとして、周囲から寄せられる信頼も厚い田中さん。誰にも負けない強いプロ意識で、今後も旭紙工のために力を尽くしていくでしょう。



をするのが一番の近道です。私は、以前中綴じの課長を務めていた井上常務から、STの操作方法はもちろん、業務に関する様々な事柄についても教わりました。一から丁寧に教えてくださった井上常務には、今でもとても感謝しています。

——失敗や挫折の経験はありますか。

綴じ込むべきものを綴じ込まずに製本してしまったことがありました。誤って製本した数は数万冊にも及び、すべてやり直しに。工場で働く社員全員に協力を仰ぎ、針金を抜く作業を手伝ってもらいました。自分の失敗によって多くの人に迷惑をかけてしまったので、

今でも忘れられない苦い思い出です。

——その失敗を通じて、どのような学びがありましたか。

失敗の原因は、内容をよく理解しないまま、作業をスタートさせてしまったところにあります。この苦い経験を機に「たぶん、こうすればよいのだろう」という思い込みで進めてしまうのではなく、必ず内容を理解し、自分の中のみ砕いてから業務に取りかかるようになりました。

そうしたミスは、心に余裕がないとき、焦っているときほど起こしやすくなるので、常に落ち着いた気持ちで、冷静に作業にあたるように心がけています。

——「トップクラスの達人」という評価を得るための工夫や、心がけはありますか。

業務において不明な点は、不明のまま放置しない、ということでしょうか。「これは何だろう」と疑問を抱いたら、必ず調べて答えを見つける。常に学びの姿勢を忘れないようにしています。自分の弱

——最後に、この先の目標についてお聞かせください。

これまで自分が得てきた知識や経験を、若い世代にも伝えていけるよう、積極的に指導を行っていきたく考えています。個人の目標は、いずれ中綴じのセクション全体を管理できるようにすること。自分自身、まだまだ視野が狭いと感じているため、より広い視野をもって成長を続けていくつもりで



## 企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：15億円
- ◆ 従業員数：200人

※ 2018年12月実績





# 設備紹介

## イトーテック

今回ご紹介するのは、イトーテック。印刷物を断裁する機械で、一度に約2000枚を断裁することができます。そんな断裁に欠かせないイトーテックについて、機械の詳細や導入の理由、使用の際の注意点などまで詳しくご説明します。皆さん、必見です！



むとう えつお  
**武藤 悦郎さん**  
工場本部 瓜破(断裁)  
工場本部  
瓜破工場 断裁部門責任者

一度に  
約2000枚を断裁

### Q.どのような設備でしょうか。

搬入してきた印刷物を断裁する機械です。一度に約2000枚を断裁することが可能で、24時間稼働している機械もあります。機種によって断裁可能なサイズが異なり、当社では複数台扱っていますが、そのうちの1台はA倍サイズを断裁できるものとなっています。

社員の  
安全を考えて

### Q.現在の設備はいつ導入されたものですか。

10年以上前に導入されたと記憶しています。導入のきっかけは、以前使用していた断裁機が古くなりトラブルが発生するようになったことです。断裁の際に紙を押さえるためペダルを踏みますが、ペダルを踏むタイミングで意図せず断裁する刃が落ちてくるようになりました。このトラブルが主な原因となり、ソフトクランプと高圧クランプという2種類のペダルの踏み分けが可能ないトーテックが導入されることとなりました。

免許は不要!

### Q.使用するには資格や免許等は必要でしょうか。

使用にあたり、特に資格や免許はいりません。ただ、断裁前に印刷物を揃える作業が最も難関で、上手くなるためには経験を重ねることが必要となります。根気よくやり続ける力が求められる機械です。

相手目線に  
立った指導

なくてはならない  
存在

やます  
彌益さん >>>



注意力と  
先を見通す力

秋の風物詩

安全第一!



### Q.現在この設備を使用できる方は何名いらっしゃいますか。

7~8名の社員とタイの研修生が使用しています。研修生に使い方の指導する際には、専門用語を「目印」などの簡単な日本語に言い換えてアドバイスをしよう心がけています。どうしても言い換えることができない場合には、日本語の上手な研修生に通訳をお願いしています。

### Q.その中で一番「達人」な方を紹介してください。

彌益(やます)さん  
断裁部門と一緒に仕事をしてきた方で、去年マルチ部門に異動となり、現在は本社工場で大きいサイズの断裁を担当しています。彌益さんは本社工場でイトーテックをメインで扱っており、本社工場に必要不可欠な存在です。普段は大人しい印象ですが、一生懸命仕事に取り組む方です。今以上に、断裁の精度やスピードを磨き上げていってくれると期待しています!

### Q.使用上での注意点。

1番の注意点は、断裁の際に指を切るなどの怪我をしないようにすることです。もう一つの注意点は、後工程を止めないように時間配分を意識すること。私自身、後工程を止めてしまってよく注意を受けていたので、皆さんも是非意識してほしい部分です。例えば、カレンダーであれば7本断裁する必要があるため、一つのセットを仕上げるのに結構な時間がかかります。断裁が止まってしまうと後の全ての作業がストップしてしまうため、作業に大幅な遅れが生じます。断裁後にある帳合作業のことも考え、切る手順や切る本数を前もって確認し作業に取り組むことが重要です。

### Q.その設備を使用している一番思い出に残っていること。

以前担当していた、阪神タイガーズのカレンダーの断裁が印象に残っています。20万冊分のカレンダーをA倍サイズの断裁機を使って1か月の間に断裁しますが、阪神タイガーズのカレンダーは他のものと比べてかなり重かったので作業に苦労しました。11月はカレンダー作成が重なるので忙しくなりますが、それにあつた重たさがプラスされ、いつもバタバタしていました。11月になると「今年もこの時期がやってきた……。」と、恒例行事のように感じていました(笑)

### Q.工場本部 瓜破(断裁)における今後の目標。

目標は安全第一、事故なく怪我なくいることです。そのため使い方を指導する際には、作業手順だけでなく危険なポイントを重点的に教えることを強く意識しています。